

決して語られることのなかった物語

日本風の NISHIKAWA ピーナッツはどのように始まったのか疑問に思う方はたくさんいると思いますので、今からその物語をお届けします。。。

1928年、日本熊本県出身の西川さんはメキシコの土地に到着し、その後数年広島出身の米本さんもメキシコに移り住みました。二人はバハカリフォルニア州のメヒカリで出会い、1930年に結婚し、4人の子供に恵られました。子供達にスミコ、フサコ、キミエ、ヨシアキと名前を付けました。

1941年、第二次世界大戦の真珠湾攻撃後にメヒカリや北米の近隣都市に住んでいた日本人の方々は松本さんにお借りした土地（メキシコ州にあるズンパンゴ市）へ難民として移動しました。西川テンゾさんの家族もズンパンゴへ移動した一つの家族であり、彼は第二次世界大戦が終わるまでズンパンゴで庭師として働いていました。

その間、世界の反対側の福岡市ではまだ12歳の子供であったヘスス・ヒデオさんが、1942年から1945年まで第二次世界大戦中に日本軍兵士として戦っていました。

1945年に第二次世界大戦が終わった後、難民としてメキシコのズンパンゴに住んでいた日本人の方々は全員家族を支援するため、お金や持ち物を持たずに、スペイン語も分からない状態で仕事を探しに出かけました。

西川さんは暫くの間色々な所で働きましたが、ある日ブラジルに住んでいた日本人の友人から覆われたピーナッツのレシピを貰い、そのレシピを革新し、色々なバリエーションのピーナッツを作りました。1957年ようやく日本風の NISHIKAWA ピーナッツのブランドを立ち上げ、製品の作りは始まりました。ピーナッツに醤油で東洋の味を加え、それをメキシカンピーナッツの栄養と融合させ、メキシコと日本の文化を結びつけ、結果として栄養価の高い、最高に美味しいスナックピーナッツが出来ました。

初めの頃は全てが非常的に自家製方法であり、ピーナッツは手作業で作られていました、作るのに奥さんや子供達も手伝い、家族経営でありました。

一方、1958年にヘススさんが改めてメキシコに戻り西川フサコさんと出会いました。二人は1960年2月14日に結婚し、その時からヘススさんも家族経営であった日本風の NISHIKAWA ピーナッツで働き始めました。

フサコさんとヘススさんは会社を受け継いで、ヘススさんは毎日その日製造した完成品を自転車で市場まで配達して、NISHIKAWA ピーナッツは一週間期間で販売を委託していました。NISHIKAWA ピーナッツの人気は上昇し、毎週売れ切れになってました。長年にわたり、NISHIKAWA ピーナッツの成功や高需要により、公認卸売業者を利用しながら、製品を全国のお客様にお届けするようになりました。

偶然ではない。。。

面白い事実：

- メキシコで初めて正式に登録された日本風ピーナッツの会社は Nishikawa でした。登録番号 S.S.A. No. 53171 “A”, No. 108508 “A”, S.S.A. No. 110480 “A”。
- NISHIKAWA ピーナッツのプレゼンテーションは1957年から現在まで同じであります。透明色の袋にオリエンタルスタイルの青い文字で名前が書かれていて、着物女性で日本風を強調しています。

現在では、なぜ殆どどの日本風ピーナッツブランドは我々が使用しているデザインや透明色の袋を真似をし、製品に「AWA」と韻を踏む様な名前を付けたことでお客様を混同をさせたいのは疑問に思った事ありませんか？

彼らはなぜ別の色、別の包装袋タイプ、別の文字スタイル、また製品に「AWA」と韻を踏まない別の名前を使用しないのでしょうか？

マーケティング統計にも関わらず、NISHIKAWA 企業はどうやって60年以上、テレビ・ラジオ・雑誌・新聞の広告なしで今まで生き残る事が出来たのか？ このテーマはメキシコの名門大学で事例研究となっています。

答えは単純であります、NISHIKAWA ピーナッツは他のブランドにいつも真似されても、競合会社はいつも失敗し、決して全く同じ物は出来ない。

NISHIKAWA ピーナッツは日本人によって作られた高品質な製品であり、いつも高品質の原材料を厳選して使用しています。NISHIKAWA ピーナッツの作りでは日本とメキシコの文化を融合している特徴で、最高の日本風ピーナッツが結果として現れています。

NISHIKAWA 企業にとって、日本風ピーナッツの製造は商業的なプロセスではなく、全体的に料理芸術であります。製造プロセスにもしっかりと注意を払いながら1つ1つの製品を大切に日々より良い、満足させるような製品をお客様にお届けするための工夫をしています。